

半田市議会議員の 市政あれこれ

こいでよしかず義

発行日 平成 28年 10月 20日

事務所〒475-0828 半田市瑞穂町 5-3-18 ☎0569-58-0967

連絡所〒475-0078 半田市新池町 2-201-22 ☎0569-29-0616

37

公園整備で街の魅力づくり!!

ため池を活かした公園が好評です

定住促進策としても、まちの魅力づくりは必須で、その一つに公園整備があります。昨年3月に、池の周囲にジヨギングや散策コースを整備した七本木池公園が完成しました。安全かつ快適なコース整備によって、市民ランナーが増えたようにも感じます。この池は野鳥が飛来するなど自然に触れる機会もあり、様々な楽しみ方で多くの方がこの公園を利用しています。利用者目線での、公園整備が行われた結果だと考えています。

既に、宮池を活用した任坊山公園の再整備計画があります。市内にはため池が多数あり、同様の公園整備は半田市の魅力づくりになることを期待しています。



すべり台でのやくそく

- ① すべってくる人と、ぶつかって大けがをするきけんがあるので、ぜったいに下からのぼらないようにしましょう。
- ② すべり台は、かならずすわってすべりましょう。
- ③ あいだをあけて、じゅんばんにすべりましょう。
- ④ すべりおわったら、すぐに、そこからはなれましょう。

【保護者の皆様へ】

子供のけがを防ぐため、絶対に下から登らせないで下さい。また、危険なことをしている子供がいいたら、注意してくださいようお願いいたします。

半田市・都市計画課

設置基準は見直しが必要です

公園づくりは市民ニーズに近づいていますが、まだまだ改善したい点があります。公園の設置には、種別毎に距離や面積の基準があります。種別の違う公園が隣接しているなど不都合もあります。設置目的と内容は曖昧のようにも思います。設置には一定の基準が必要ですが、それ以上に、住民ニーズにこたえる事が大切です。

上の写真は、七本木池公園のもので、すべり台の遊び方が書かれています。すべり台の遊び方を決めている点は、如何なものかと思えます。同様の禁止事項を記した掲示は、市内どの公園にもあります。公園は、子どもたちにとって、限られた遊び場の一つです。その大切な遊び場は、自由に遊べる場所として提供したいと思えます。



世田谷区では自由な遊び場が…

上の写真は、東京都世田谷区の羽根木公園内のフリーパークで撮影したものです。敷地内にある建物や遊具は、全て利用者が話し合って設置してまいりました。そして運営の基本は、左の写真のように、「自分の責任で自由に遊ぶ」でした。勿論、利用者が好き勝手に振舞っている訳ではありません。NPOの方が世田谷区から委託を受け、利用者の声を聞き利用者と一緒に運営をしていました。

このように、工夫次第で市民の目線と感覚による公園づくりは可能です。このような遊び場を、半田市にも作ってきたいと思えます。あなたはどんな公園があったらいいとお考えですか、是非お聞かせ下さい。



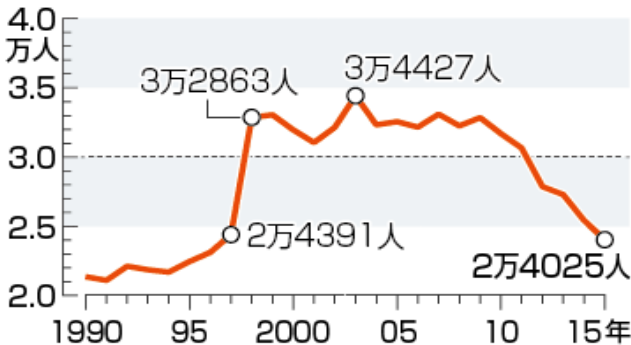
2万人を超える自殺者がいるっておかしい

先進7カ国中最悪の異常事態

日本の自殺者は、1998年以降14年連続して3万人を超えています。2006年に「自殺対策基本法」の施行によって、様々な対策が実施され、2012年からは3万人を下回るようになりました。しかしこの状況は、先進7カ国中でも最下位です。

日本財団の全国規模の調査で、4人に1人が自殺を考えた経験があるという衝撃的な結果が出ています。自殺に追い込まれる前に、適切な対応が必要ですし、その背景にある諸問題を解消

自殺者数の推移



市町村のきめ細かな対応が…
 今年の自殺対策基本法改正により、市町村にも基本計画策定が義務付けられました。きめ細かな対応のために、実態把握、傾向分析から対応策を見出すことが求められます。ある意味、これらが本番とも云えます。
 現状は、半田市に特定した自殺者の年代や動機に関して、実態把握が出来ていません。この様な点を県との協議し、より正確な実態把握に努めることから始める必要があります。
 これまでの対策による効果も、分析する必要があります。また、社会との繋がりの少ない対象者への対策が遅れていることも想像ができます。先行して実績のある政令指定都市などから対策を学び、市民に寄り添う気持で半田市の「自殺対策基本計画」を策定したいと考えます。



給食は「美味しい」の追求が基本。

新鮮野菜の供給システムがポイント…

半田市の学校給食センターは、老朽化が進み建て替え時期が来ています。この機会に、子どもたちの給食はどうあるべきか、もう一度考えてみたいと思います。

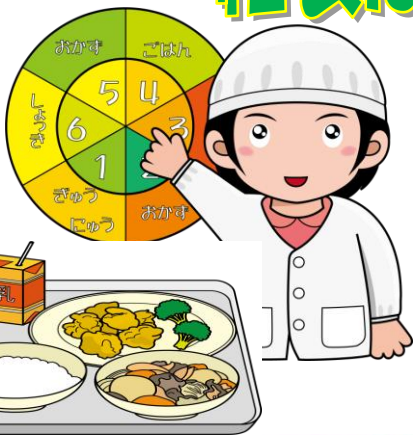
農作物を対象とした地産地消推進協議会を立ち上げている自治体があります。地元産は鮮度が高いので美味しさの必須条件を備えています。一方、需要予測や生産計画などを調整する必要があります。その調整のための推進協議会です。旬の食材を使った、美味しさの体験こそが食育です。

地元食材の使用は、様々なメリットがあります。経済的な面も見逃せませんが、流通過程がシンプルであることは安全確保の絶対条件でもあります。

HACCPなどの管理システム導入を…

給食の提供には、O157やノロウイルスなど様々なリスクを抱えています。目に見えないリスクを排除するには、厳格なルールが必要です。食品業界でも、NASAが宇宙食の衛生管理のために開発したHACCP（ハサップ）等の、管理システム導入が当たり前になっています。

給食センターにおいても、HACCP導入する事例もあり、今後一般的になると考えます。リスク回避のために、半田市の学校給食においても厳格な管理システム導入を進めていきたいと考えます。



気軽にご意見をお寄せ下さい。

事務所: 半田市瑞穂町5-3-18

Tel&fax: 0569-58-0967

E-mail: y-koide@cac-net.ne.jp